



高尾の森づくり - 私の活動 - 西村 智磨子

1998年頃、日本山岳会自然保護委員会の内部において、青森支部で始めた「ブナ林再生事業」に誘発され、関東付近でも森づくりのフィールドがないかと模索していた。

東京神奈川森林管理署とのルートが取れ、1999年秋頃から、フィールド候補地の選定、下見などを繰り返し、2000年春から、実現に向けての、取り組みが始まった。2000暮れ「森林整備計画書」を添えて東京神奈川森林管理署に国有林使用許可を申請し、2001年1月1日付けで、日本山岳会と東京神奈川森林管理署の間で協定が結ばれ、活動の承認を受けることとなった。2001年1月19日、「日本山岳会自然保護委員会高尾の森づくりの会」と命名、「高尾の森づくりの会」は、八王子市裏高尾小下沢の国有林で、針広混交林の整備を目指し、正式に発足する。スパーンの長い活動が要求されることになる。当時、自然保護委員会に所属していた西村も、発足人として、その渦の中に飲み込まれて行くことになる。

この「高尾森づくりの会」発足当初は、山岳会執行部はもとより、山岳会会員の中でも、その先行きを危惧する空気が強かった。自然保護活動は、森づくりだけではないはずと、自然保護委員会の中でも異を唱える人がいた。自然保護活動は、多岐多彩にわたり、色々な面に枝分れする。森づくり活動は、その一分枝であることは否定できない。そんな中、「森づくりの会」会員の対象を、山岳会会員のみならず、広く一般にも求め、第一回植樹祭を迎える準備に取り組み、2001年4月15日、1000本の広葉樹の植樹を行った。

参加者261名、報道関係者も取材に訪れ、上々の滑り出しをした。林野庁から、国有林は、名実ともに「国民の森林」と位置づけられ、森林整備への国民参加を促進するとの基本方針が示されたことに重なり、1997年、地球温暖化防止京都議定書が議決された「京都議定書」が出され、環境問題が、世界各国・社会の各分野において大きくクローズアップされた時期と相まって、



会員数も増え、企業からも協賛を受けるようになり、協賛企業からの参加者が多くなった。今年で、8回目を迎えた春の植樹祭には、400名に近い参加者があった。これまでの、植樹木の累



積は1万本を数え、活着率も68%と類推されている。7年を経過した2001年度の植栽地では、植えた山桜が数年前から咲き出し、ピンクの花数を年々増やしている。同じく、

ウワミズザクラの中には、直径24cm、樹高8mに生育したものもある。こうした植樹木の変化を目にすることは、汗を流してきたことの成果として、実に楽しいことであり、大きな喜びでもある。毎月第二土曜日の定例作業日には、80名を下らない会員が集まり、下草刈り、蔓切り、間伐、地ごしらえ、作業道整備にと汗を流し、そのほか、畑を借りて自家製の育苗、植樹地生育調査、こどもキャンプ等の活動を続けている。活動の環

は、今後、更に広がりを見せていくことであろう。地味ではあるが、着実に活動が続けていくことをポリシーとして行きたいと考えている。



公益法人化を目指す日本山岳会にとって、「高尾の森づくりの会」は、今、外に向け開かれた活動の一つとして、表層的な役割を担うことになったといっても過言ではあるまい。しかし、悲しいことに、日本山岳会会員の参加人員が少ないことである。日本山岳会を冠にいただく会である以上、「高尾の森づくりの会」の総会員数の1/2は日本山岳会の会員で占めて欲しいと思うのだが...1/3を超えるに至らないでいる。

新連載

ゆにーく 標識&標石

天測点



天文測量における経緯度観測は、当初は測地原点を決定する際あるいは、離島などの測地網から独立した地域での位置確定の時に実施された。そのような測量を経て測地網が完成した後は、主に網の規正のために天文測量が実施された。星(恒星)を観測して座標(経度、緯度)を決める測量(天文測量)に使用した天測点は、昭和26年から昭和33年の5年間で全国に48点を設置した。設置された当時の観測機器は大変に重く、観測台が必要であった。そのため、わざわざ観測台を持ち運ぶこともなく、さらに繰り返し測量にも便利のように天測点が設置された。その後機器の改良により軽量化が計られた為全国の三角点上で、天文測量を実施することになり、天測点の役割はわずかの期間だけに使用されただけであった。

天測点の形状はコンクリート製で、柱の太さ65cm、1辺27cmの8角形。柱の長さ:2m、盤石(柱の基礎)の厚さ50cm、1辺1.4mの正方形と規定されているものである。関東近辺では堂平山、鹿野山などに現存している。(写真は鬻山にある長野県唯一の天測点) by kondo

行きましょう 須坂基線調査

須坂基線と雁田山、井上山、鬘山(もとどりやま)を巡る

全国 14 箇所の基線の一つ、長野県の須坂基線と、その増大点を尋ね、併せて善光寺平を中心とした北信の城山跡を巡ります。標高 700m そこそこの、めったに訪ねることのない超マイナーな地域ですが充分楽しめ、思いがけない発見が楽しみな山旅です。ふるってご参加ください。

日時: 平成 20 年 10 月 18 日(土)~19 日(日)
集合: JR 長野駅 10:00 (善光寺口 待合室付近)

場所: 須坂基線東端~西端 約 4km を出来るだけ直線で歩く 基線から北側の増大点 雁田山(759m)へ (スベリ山登山口~山頂(反射板跡)~姥岩~滝ノ入城~岩松院)約 3 時間
 南側の増大点 井上山(771m)へ (登山口~井上城跡~井上山山頂~大城跡~浄雲寺)約 3 時間 雁田-井上からの二次増大点西側の鬘山(もとどりやま・745m)へ 山頂には城跡、長野県唯一の天測点(ゆにーく標識&標石に解説)などがあり、川中島の絶好な観測ポイント(長野駅よりバスで登山口へ。山頂往復)約 1 時間

コース概略

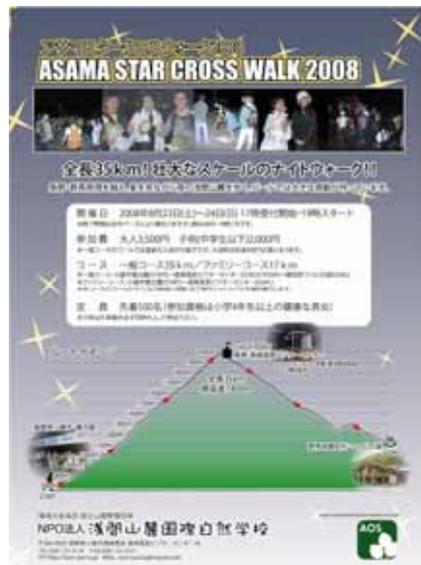
10/18 長野駅=(長野電鉄)=須坂駅=(バス)=千本松・基線東端・基線西端・北須坂駅=(長野電鉄)=小布施=(バス)=スベリ山入り口・雁田山三角点・姥石・岩松院・小布施散策(泊)YH おぶせの風(予定)

10/19 小布施駅=(長野電鉄)=井上駅・井上登山口・井上城跡・井上山三角点・浄雲寺・井上駅=(長野電鉄)=長野=(牟礼行バス)=見晴・鬘山往復・見晴(バス)=長野駅
地図: 1/2.5 万図「須坂」「中野西部」

持ち物: 飲み物・昼食・雨具・防寒着・手袋・筆記具 ほか
費用: 約 10,000-(1泊2食宿泊費、交通費)但し、長野までの往復は含まれていません(東京-長野・新幹線利用 片道 8170-)

注) 10/18 昼食、10/19 昼食は各自でご用意ください
宿泊予約の都合上、9月3日(水)までに近藤まで連絡ください (9/3 の例会にて詳細の説明をいたします)
 参考: 東京駅発 7:52 (あさま 507 号)=9:47 長野駅着
 または 8:16 (あさま 663 号)=10:00

歩きませんか アサマスタークロスウォーク 2008



8月23日(土)~24日(日)に 標高 2,000m の峠を通り長野県と群馬県の県境を越えた、夜の浅間山麓を歩くナイトウォークのイベントがあります。(参加費 ¥3500-) きらめく満天の星空や真っ暗な中を歩くという、昼間では体験できない浅間山麓の大自然を体感。自分の体力へ挑戦し、だんだんと明るくなっ

てくる夜明けにゴールを迎えたときの達成感を味わいませんか?

コースは、長野県小諸市の懐古園を出発し、車坂峠の高峰高原ビジターセンターを経由して、群馬県鳩恋村のつづじの湯までの、標高差 1,300m、全長 35km を歩きます。参加しよう!と思われた方は近藤まで連絡ください。詳細の案内をいたします。また、24 日早朝の仮眠場所などの用意をいたします。ホームページからも詳細がわかりますのでご覧ください (<http://npo-asama.jp/topic/1213681685.html>)

例会の議事録

2008年7月2日(水) 19:00~20:00 於 JAC 集会室 A
 出席者 10 名(北野、平野、遠山、近藤、鶴田(実)、鶴田(泰)、高橋、大西、川口、今井(順不同))

内容: 6月16日(月)に鯉坂、神崎両副会長出席の同好会連絡会議に出席した。現在同好会、同期会が各12あるが、これらの会のあり方について検討の必要性があるという発言があった。当日の配布資料回覧。(北野) 逝去された今井貴美子会員遺品の地図について、図書管理委員会の要請により、その内容をチェックさせていただいた。会として保存する必要があるものを選定し、現在整理中の地図に加えて保存することにしている。それ以外は山水会へお返しする。(近藤) JAC 保有の全地図整理終了に伴うリストはホームページ内のデータにして会員がみられるようにする予定。(近藤) 毎月発行の AGC レポートは JAC 図書館に入れることにした。また分水嶺踏査特集号は国会図書館へ入れる予定。(平野) エベレスト山域学術踏査参加時の状況と、高度による体調についての報告。(大西) 10月に須坂基線踏査を計画している。コース等検討次第提案予定。(近藤) 終了後は「鯨の家」にて山崎会員を加え懇親会(11名)以上(今井)

お知らせ

旧版地図リストについて
 AGC で進めていた JAC 所有の地図整理で作成したリストは国土地理院からの依頼で院保有のリストと照合作業を進めています。なお今後 JAC のホームページにリストを掲載する予定です。会員限定ページとなりますが、これを期により積極的に活用できるようになれば、整理作業を進めたかいがあったのではないかと思います。

次回の例会

日時 8月6日(水) 18:30 から 於: 山岳会 ルーム
テーマ: 須坂基線調査ほか
 例会終了後の懇親会も是非出席ください

編集後記

> 異常な暑さのつづく日々です。この AGC レポートも早や一年になりますが、昨年の今頃、このレポートを編集していた時も、たいへん暑かった事が記憶にあります。こしは更に異常さが増したと思いませんか? 異常気象、地球温暖化、環境異変 などの言葉が連日のようにマスコミに取り上げられています。「山岳地理」ということをテーマに掲げている我々も決して無関心ではいられない事がたくさんあります。AGC レポートがいつまで続けられるかわかりませんが、そんな関連情報を、どんな小さな事でも構いませんのでどしどしお寄せください。(kon)

AGC レポート vol-14 2008 年 7 月 30 日発行
 発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表: 北野忠彦)
 〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会 気付
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
 編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com